

成田 匡志 博士

Masashi Narita MD. PhD.
Group Leader
Cancer Research UK, Cambridge Research Institute
Robinson Way, Cambridge CB2 0RE, UK
email: masashi.narita@cancer.org.uk (日本語可)

Cellular senescence and chromatin architecture

セネッセンス(cellular senescence) は、培養細胞が分裂疲弊によって“非可逆的”に細胞周期を停止させる現象をさす。ここ数年になり、ようやくin vivoモデルも確立されつつあるなか、内因性のがん抑制機構として、また個体の加齢との関連において注目を浴びている。しかし、その分子機構は未だ不明な点が多い。一つのアプローチとして私たちはエピジェネティック遺伝子調節に着目し、クロマチン構成因子の解析を行ってきた。ヒト線維芽細胞は、セネッセンスにおいて著明なヘテロクロマチン様変化を示し、これを senescence associated heterochromatic foci (SAHFs) とよぶ。SAHF は新たなセネッセンスのマーカーにとどまらず、そのメカニズムに関わるユニークな構造として注目される。ここでは、セネッセンス研究における最近のめざましい進展を概説し、さらに 私たちの知見を中心にその effector mechanismについても議論したい。

参考文献 Narita et al., Cell 2003, 113, 703
Narita et al., Cell 2006, 126, 503

日時: 12月5日(火) 13:30~14:30

場所: 山の畑キャンパス システム自然科学研究科
南棟3F 大講義室

世話人 田上 英明
大学院システム自然科学研究科
(内線5818)